



【教育目標】

国際化や情報化が急速に展開を遂げた知識基盤の中で、「新たな価値を創造する力」が必要とされている。総合的な人格の陶冶の基、新しい時代の課題解決に対応し、社会貢献できるよう以下の人材育成を目指す。

- 1 幅広くしなやかな知性と潤い豊かな感性をもつ教養人
- 2 自主・創造の意欲と忍耐力・協調性との調和のとれた高い徳性をもつ指導者
- 3 自己を厳しく律しつつ、常に進取の気概をもって社会貢献できる開拓者

【教育方針】

- 1 問題・課題の発見から解決に到る主体的な学びを通して、真の個性・独創性に資する質の高い学力を育む。
- 2 体験活動、集団活動を通して、自主・自律の心、集団や社会の一員として自覚をもち、進んで社会に貢献しようとする精神を育成する。
- 3 キャリア教育を通して自己理解を促し、チャレンジ精神や進路実現に必要な資質能力を育む。
- 4 国際理解教育を推進するとともに、我が国の伝統・文化に対する理解を促し、真の国際人・教養人を育成する。

【目指すべき生徒像の将来像】

- 1 グローバル社会の中で、多様な価値観をもった人々と英語をツールとして、協働して課題解決に当たれる人材
- 2 高い志を有した教養人・指導者・開拓者として、仲間と協働し、ゼロから納得解を創造できる人材
- 3 Plan (計画)・Do (実行)・Check (評価)・Action (改善) の各能力、且つ、言語能力を持ち合わせ、社会で自立して生きていける人材
- 4 専門性を有し、AI時代を生き残ることのできる人材
- 5 AIにない読解力と調整力を有した人材
- 6 心身ともにタフな人材

【スクール・ミッション】

国際化や情報化が急速に展開を遂げた知識基盤社会の中で、「新たな価値を創造する力」が必要とされており、新しい時代の課題解決に対応し、社会貢献できる人材の育成を目指して、国際理解教育を推進し、多読やディベート等の英語学習に力を入れた教育活動を通じて、国際社会に貢献する教養人、指導者、開拓者を育成します。

【スクール・ポリシー】

●グラデュエーション・ポリシー

全ての教科・科目に取り組み、特別活動や道徳・総合的な探究の時間を通して、自分の専門性を高め、仲間と強調・協力して新たな価値を生み出す「創造力」を育めます。

●カリキュラム・ポリシー

幅広い知識と教養を身に付け、多様な価値観をもった仲間と協働し、ゼロから納得解を創造する態度を養い、生徒一人一人の高い志に根ざした進路希望を実現できるように教育活動を展開します。

●アドミッション・ポリシー

国際理解に関わる事柄に強い関心をもち、国際社会で活躍する指導者としての資質や能力を身に付けるべく、高い志をもって主体的に学び、率先して他者との協働的な取組を実践して、自らの進路を切り拓いていく生徒を求めます。

【本校の期待する生徒の姿】

本校は、「教養・探究・立志そして世界へ」のスローガンの下、主体的な学びを通して、自ら考え課題解決を図り、イノベーターとしてすすんで国際社会に貢献できる人間の育成を目標に掲げ、多彩な人材を送り出しています。また、海外との交流の機会を多く確保し、海外帰国生徒・留学生の受け入れ・送り出し等を行い、国際理解教育推進に力を入れています。そこで、次のような生徒を期待します。

- 1 しっかりした家庭学習の習慣が身につけており、大学進学への強い意志を持ち、積極的に授業に取り組む生徒
- 2 学業成績優秀であり、総合的な学習の時間等においても、高い課題意識と意欲をもって探究をはじめとした様々な活動に取り組み、入学後もその維持・向上が期待できる生徒
- 3 部活動や生徒会・委員会活動、ボランティア活動等に自主的に取り組み、入学後も継続して活動が期待できる生徒
- 4 国際理解に関わる事柄について、強い興味・関心をもって、入学後も意欲的に学習する意志のある生徒

【育成すべき資質・能力】

全ての教科・科目に取り組み、特別活動や道徳・総合的な探究の時間を通して、自分の専門性を高め、仲間と強調・協力して新たな価値を生み出す「創造力」を育成する。

人間力・感性、幅広い教養、コミュニケーション能力・協働性、基本的な学力、課題発見解決力、主体的な学び、協働する力

| 中期的目標と方策 | | |
|---------------------------------------|--|---|
| Ⅰ 学 習 指 導 | 1 授業改善：教科マネジメントを充実させ、組織的・計画的に主体的・対話的で深い学びを実現する授業を実践する。 2 指導力向上：ルーブリックに基づく適切な指導と評価の改善を図り、生徒の習熟の程度や学習状況に応じた指導を行う。 3 社会生活におけるDX化に対応した教育の推進：東京都教育施策大綱（R7.3.）、東京都教育ビジョン（第5次）（R6.3.）、「2050 東京戦略」（R7.3.）、都立高校の魅力向上に向けた実行プログラム＜令和6年更新版＞」等に基づく ICT、一人1 台端末、生成 AI の積極的な活用を図る。 4 国際理解教育の推進：英語4 技能5 領域の着実な定着、第二外国語の学びの機会拡充 5 探究活動の発展：「総合的な探究の時間」1 年2 単位、2 年1 単位における到達目標の明確化と指導内容の改善・充実を図る。 | |
| | 今年度の取組目標と具体的方策 | 関連する数値目標 |
| | ① 基礎基本の定着を図ると共に、「主体的・対話的で深い学び」につながるアクティブ・ラーニングの授業を推進し、学習内容に応じてペア・ワーク、グループ・ワーク、探究型、課題解決型、反転学習等の手法を積極的に取り入れた授業を実践する。 ② 本校のグランドデザインのルーブリックに基づき、各教科科目別ルーブリックや Can-Do List を作成し、観点別評価に基づく指導と評価の一体化を図る。 ③ 「わかる授業」を合言葉に、毎時間の授業では授業の始めに「本時のねらい」を明示し、授業の終わりに「本時の振り返り」を行う。DXミスクールとして、ICT 等の視聴覚教材の活用や、生徒一人1 台端末の利活用（Teams, Forms, OneNote, Classi NOTE 等）を積極的に図る。生成 AI を活用した取組にも積極的に挑戦する。 ④ 授業研鑽月間や校外研修・教科主任会、教科会、模試結果分析会等において、指導内容・方法や評価等について研修を行い、組織的に計画的に教科指導力を向上させる。 ⑤ 年間授業計画に学習到達目標を明記するとともに評価計画を提示し、指導成果の検証、「授業評価アンケート」「学校評価アンケート」の結果を踏まえ、指導を改善する。 ⑥ 文理を問わず幅広い進路選択につながる英語力の向上を図る。4 技能 5 領域のバランスの取れた授業を実施する。 ⑦ 探究活動において、「【TIPS-Type 4】探究的な学び推進事業」の下、1 年次ブレ探究、2 年次プレゼンテーション及び論文執筆へのサポート等計画的に実践する。 ⑧ 図書館の開館時間を有効に活用し、読書への関心を高め、授業での活用、生徒の自学自習の時間と場所を保障する。 | ○学校評価アンケートで「学習指導に満足している」90%以上 ○「学習指導の教材や指導の工夫がなされている」85% ○ICT 等の利活用 80%以上 |
| | 主な推進所管・担当 | |
| 各教科（特に英語科）、各学年、教務部、国際教育イノベーター推進部、図書館、 | | |

| 中期的目標と方策 | | |
|-----------------------|---|---|
| Ⅱ 進 路 指 導 | 1 主体的な進路活動の促進： 3 年間を見通した進路活動計画の下、適時適切な情報提供やデータ分析結果のフィードバック等を行うことにより、生徒の主体的で適切な進路選択に向けた指導を推進する。 2 組織的な進路指導体制の確立： 進路指導部・学年・教科が連携し、多様な背景と進路希望を有する生徒に応じた適切な指導を組織的に行うことにより、進路希望の実現を図る。 3 進学指導の改善・充実（進学指導推進校としての取組）： 進学指導訪問・研究授業等の機会やデータ分析結果を活用して、各教科における学習指導を改善することにより、進学実績の向上を図る。 | |
| | 今年度の取組目標と具体的方策 | 関連する数値目標 |
| | ① 生徒のニーズや大学入試、高大接続教育等に応じたキャリアガイダンス、進路説明会等を実施し、3 年間を見通した組織的・計画的な進路指導体制を構築する。 ② 進学実績データの整理・分析や、業者及び進路学年教科担当による「模試結果分析会」の実施を通して、組織的な進学指導を徹底する。 ③ 模試結果分析会で得られたデータ分析をもとに、各学年では、生徒への模試の振り返りを実施し、模試の効果的な活用方法に繋げる。 ④ ポートフォリオや模試分析システムを活用し、生徒保護者のニーズに応じた面接指導を実施する。全学年原則年1 回全員、三者（担任・生徒・保護者）面談を行う。 ⑤ 進路指導部・学年・教科が連携し、総合型・学校推薦型選抜、一般選抜に対応する講習等の進学指導を組織的・計画的に実施する。 ⑥ 東京都教育委員会からの情報を活用し、海外大学進学指導体制を構築する。 ⑦ 海外帰国生徒等多様な背景を有する生徒の進路指導に係る個別指導、日本語学習支援、面談等適切に対応する。 ⑧ 教師版「進路の手引き」を活用する。生徒版「進路の手引き」の作成に着手する。 | ○「進路指導・キャリア教育が充実している」90%以上 ○「模試の振り返り等効果的な活用をしている」80%以上 ○難関国立大学、国公立大学現役合格 50 名以上 ○早慶上理 ICU 現役合格 120 名以上 |
| | 主な推進所管・担当 | |
| 進路指導部、各学年、各教科 | | |

| | | |
|-----------------------|--|---|
| Ⅲ 生 活 指 導 | 中期的目標と方策 | |
| | <p>1 「時を守り、場を清め、礼を正す」指導の励行：挨拶や身だしなみ等の基本的な生活習慣やマナーを身に付け、時間厳守やチャイム着席を始めとする授業規律や登下校や制服着用等のルールを遵守する等、規範意識の向上を図る。</p> <p>2 いじめのない学校づくり：生徒指導提要(R.4.12.)や「チャレンジポートプラン」(R.6.10.)等を踏まえ、生命の大切さや人権尊重についての指導を通して、いじめの未然防止に努めるとともに、組織的に早期発見・早期対応できる体制を維持する。</p> <p>3 事件・事故防止の徹底：長期休業中の事件・事故や、登下校時や部活動中の事故防止に向けた指導を、組織的・計画的に実施する。</p> <p>4 環境意識の向上と校内美化の強化：様々な教育活動を通して環境への意識を高めるとともに、清掃美化活動を強化し、快適な学習環境を整備する。</p> | |
| | 今年度の取組目標と具体的方策 | 関連する数値目標 |
| | <p>① 「三田高校生活指導統一基準」を基本に、挨拶励行を奨励し、制服の正しい着用やマナーについて指導する。授業規律を徹底させ、理由のない遅刻については指導する。</p> <p>② いじめや生命に関わる事故を未然に防ぐため、「SNS 三田高ルール」を徹底し、相手を思いやる行動を考えさせる。生命に係る講話の実施、特別支援コーディネーターとスクールカウンセラー（SC）の連携強化を図るとともに、人権尊重教育を継続的に推進する。第1学年のSCとの全員面接を複数日で実施する。</p> <p>③ 生徒指導提要や「チャレンジポートプラン」等を踏まえ、不登校等の未然防止、早期支援を図る。</p> <p>④ セーフティ教室、薬物乱用防止教室、長期休業前の生活指導を確実にを行い、事件・事故の未然防止に努める。</p> <p>⑤ 基本的な感染症対策の継続と校内環境美化活動を強化する。</p> | <p>○いじめ件数ゼロ</p> <p>○生命に関わる事故ゼロ</p> <p>○1日当たりクラス平均遅刻人数 1名以下</p> <p>○学校評価アンケート「基本的な生活習慣」80%以上「規範意識」90%以上「品位ある行動」90%以上</p> |
| | 主な推進所管・担当 | |
| 生活指導部、各学年、全教員 | | |

| | | |
|---|--|--|
| Ⅳ 特 別 活 動 ・ 部 活 動 ・ 健 康 へ の S A N | 中期的目標と方策 | |
| | <p>1 学校行事の改善・充実： 体育祭や文化祭（全学年）、修学旅行（2年）、合唱コンクール（1, 2年）等の多様な学校行事を通して、平素の学習活動の成果を活かすとともに、自主的・主体的な実践力や協働する力等を高め、規律ある学校生活を充実させる。</p> <p>2 部活動の振興： 生徒の自主的、自発的な参加によりスポーツや文化等に親しむ活動として、地域行事への貢献等、地域との連携を図りながら、部活動の振興を図る。</p> <p>3 儀式的行事の適正な実施： 学校生活に有意義な変化や折り目を付け、新しい生活に向けた希望・意欲を新たにもちながら厳粛な中で規律ある態度で臨むなど、儀式的意義を踏まえた指導を適切に行い、儀式的行事を適正に実施する。</p> <p>4 体力向上・健康づくりの取組： 「TOKYO ACTIVE PLAN for students」（令和4年3月策定）等を参考とした生徒の体力向上に関する取組を行う。体育の授業や体育的行事、部活動を通して、運動意欲や体力、基礎的な運動能力、競技力の向上を図るとともに、安全管理や食育、メンタルにも配慮した、心身の健康づくりを推進する。</p> | |
| | 今年度の取組目標と具体的方策 | 関連する数値目標 |
| | <p>① 学校行事や部活動等の特別活動において、本校独自の生徒主体で創り上げる活動の充実と活動成果の向上を図る。</p> <p>② 部活動中の事故を防止するため、「部活動に関する活動指針」に基づく指導を強化するとともに、各部活動において事故防止対策を継続して徹底する。</p> <p>③ 部活動指導者や部員同士の協働・協力を重視し、競技成績や発表会等の成果、参加者の満足度を向上させる。</p> <p>④ 保健体育科の授業や体育的行事、部活動等において、指導目標に即した教育活動を行うことにより、体力向上及び心身の健康維持・増進を図る。</p> <p>⑤ 入学者の男女比率等を鑑みながら、行事等については、工夫と精選を行う。</p> | <p>○「三大学校行事（体育祭・文化祭・合唱コンクール）の満足度」90%以上</p> <p>○都大会入賞レベル以上の成績 2部活動以上</p> <p>○体力テストの全項目で東京都の平均以上</p> |
| | 主な推進所管・担当 | |
| 生活指導部 各学年、保健体育科 各部活動顧問 | | |

| 中期的目標と方策 | |
|---|---|
| V 教 育 課 題 | <p>1 DXハイスクールとしての取組：文部科学省指定の3か年事業として、本校のDX化を推進する。</p> <p>2 ユネスコスクール、Global Education Network School Premier 20 指定校としての取組の推進：「東京グローバル人材育成計画‘20」(H30.2.)及び「東京グローバル人材育成指針」(R4.3.)を踏まえ、本校独自の国際理解教育の更なる推進を図る。その基盤となる英語力の一層の向上と国内外の課題を解決する創造力・論理的思考力を育成しグローバル人材の輩出を図る。</p> <p>3 防災教育の推進： 地域と連携した防災訓練・避難訓練・防災講話の実施や、保健授業における「災害の発生と安全・健康」に係る指導を通して、自助・共助・公助を踏まえた防災教育を推進する。</p> <p>4 多様なニーズへの対応： 海外帰国生徒を始めとする特別な支援が必要な生徒への学習指導・生活指導・進路指導における支援態勢の充実を図る。</p> <p>5 地域貢献の推進： 教育内容の地域発信、近隣小中学校私立高校やインター校との教育交流、学校開放事業等を通して、地域連携を重視した地域貢献を推進する。</p> |
| | 今年度の取組目標と具体的方策 |
| | 関連する数値目標 |
| | <p>① AIに関する三田高校活用ルールを策定する。AIの効果的活用に向けて、教職員及び生徒それぞれを対象とした専門家等による講演会を実施する。</p> <p>② 三田ESSPAとして、British Council、ブリティッシュ・ヒルズ、TGG、ポストノカデミックターの実施に向け、各内容の更なる充実を図る。姉妹校等の学校交流・生徒交流を計画的・組織的に行い、その成果を検証する。</p> <p>③ ユネスコ委員会等によるシンポジウムの開催等、生徒主体の行事を複数回実施する。</p> <p>④ 英語コミュニケーション能力を向上させるため、第2学年でのオンライン英会話や英検等を活用し、成果検証・分析を踏まえ改善を行う。</p> <p>⑤ 一時滞在施設としての役割を果たせるよう、地域や消防署等の外部機関と連携した実践的な防災訓練及び避難訓練を実施する。危機管理マニュアルの見直しを図る。</p> <p>⑥ ICT(SNS)を活用し、災害時等の情報発信を迅速かつ確実に行う。</p> <p>⑦ 海外帰国生徒等、異なるバックグラウンドをもつ生徒の課題を整理し、必要に応じた学習支援(日本語指導)及び進路指導を行う。</p> <p>⑧ グラント・テスートの学校施設開放事業を計画どおり実施する。</p> |
| 主な推進所管・担当 | |
| <p>○「世界に向けて視野を広げる教育に満足している」90%以上</p> <p>○「学校入学満足度」90%以上</p> <p>○姉妹校等との学校交流・生徒交流3回以上</p> <p>○英検1級合格3名以上、準1級合格150名以上</p> <p>国際教育イノベーター推進部、英語科、保健体育科、防災教育推進委員会、生活指導部、各学年、国語科(日本語科)、教務部、DX推進チーム、経営企画室</p> | |

| 中期的目標と方策 | |
|--|--|
| VI 募 集 ・ 広 報 活 動 | <p>1 広報媒体の積極的な活用：ホームページ等の広報媒体を積極的に活用し、本校の特徴や取組、特色ある教育活動、生徒の活躍等の効果的な広報を推進する。</p> <p>2 学校説明会等への組織的取組の推進：学校内外で行われる学校説明会・学校見学会に組織的・戦略的に取り組むことにより、参加者のニーズに応える内容及び運営の充実を図る。</p> <p>3 ニーズに応じた広報戦略の実施：中学生の志望傾向の分析等を通して、令和11年度港区白金に新設される「新たな教育のスタイル実施校(仮称)」との共存、かつ区別化・差別化を意識した広報戦略を策定・実施する。</p> <p>4 入学者選抜の適正な実施：海外帰国生徒入選における事前相談や資格確認、問題作成業務を含め、4月生募集・9月生募集において、推薦、学力、海外帰国生徒等の各入学者選抜を適正に実施する。</p> |
| | 今年度の取組目標と具体的方策 |
| | 関連する数値目標 |
| | <p>① 本校の取組を広く周知するため、ホームページの更新、X(旧Twitter)の活用、「学校案内」等の情報発信ツールの改善と積極的な活用を推進する。</p> <p>② 都の事業である令和8年度「都立高校EXPO」に参加するなど、学校内外での学校説明会等に積極的に参加する。</p> <p>③ 塾主催の外部学校見説明会等に積極的に参加し、広報活動を一層拡大する。</p> <p>④ 推薦・学力入選の倍率の維持・向上を期し、本校の良さを十二分に伝えるために、生徒会を中心とした生徒主体での学校見学会を複数回継続実施する。</p> <p>⑤ 上級学校訪問受け入れ、出前授業、生徒の母校訪問を実施する。</p> <p>⑥ 帰国入選の事前相談や資格確認を東京都教育委員会の協力の下行う。志願者のエッセイや受検者のデータ分析を行い、募集対策や入学後の指導に役立てる。</p> <p>⑦ 正門沿いの柵を有効活用し、横断幕の掲示等、生徒の日頃の成果を都民の皆様へアピールする。</p> <p>⑧ PTAや同窓会と連携し、文化祭や学校説明会等の広報活動の充実を図る。</p> |
| 主な推進所管・担当 | |
| <p>○HP更新回数200回以上</p> <p>○学校施設見学会・学校説明会参加者数4,500人以上</p> <p>○入選推薦募集倍率3.0以上</p> <p>一次募集倍率2.0以上</p> <p>庶務部、教務部、国際教育イノベーター推進部</p> | |

| 中期的目標と方策 | | |
|------------------------------------|---|---|
| VII 学校経営・組織体制 | <p>1 カリキュラム・マネジメントの徹底：：グランドデザインに基づき特色ある教育課程を編成・実施するために、カリキュラム・マネジメント及びPDCAサイクルを徹底し、学習指導、進路指導、生活指導、特別活動等の教育活動の質の向上を図る。</p> <p>2 服務事故防止：教職員が教育公務員としての高い使命感・倫理観をもって服務規律を遵守することにより、体罰や不適切な指導、個人情報管理等に係る服務事故防止を徹底する。</p> <p>3 経営企画室の取組：経営企画室の経営参画を推し進め、各分掌・学年・教科と相互に連携協力しながら、情報の共有化、教育環境の整備及び教育活動の適切な計画化や予算化を図る。</p> <p>4 ライフ・ワーク・バランスの推進：「学校における働き方改革の推進に向けた実行プログラム」及び「学校における働き方改革の推進プラン」(H30.2.)に基づき、計画的な業務進行やICTの積極的な活用、PDCAサイクルの確実な実施等による業務の効率化・削減化・縮減化に取り組み、教職員一人ひとりのライフ・ワーク・バランスの実現を図る。</p> | |
| | 今年度の取組目標と具体的方策 | 関連する数値目標 |
| | <p>① 各分掌・学年・教科は、組織目標の設定、中間報告、年度末総括を行い、課題の把握と具体的な解決策について組織的に検討する。</p> <p>② 主幹会議を定期的で開催し、学校の将来を見据え、学校全体や喫緊の課題等について、分掌の枠を超え協議し課題解決のための原案を作成する。</p> <p>③ 上記②において、「学校提案による都立高校の魅力向上プロジェクト」について協議・検討する。また、次期学習指導要領改訂に伴う新たな教育課程編成の検討準備期間とする。</p> <p>④ C4th、Classi等の適切な活用を推進するとともに、業務の効率化を図る。</p> <p>⑤ サービス事故防止研修やチェックシート等を活用した取組を通して、サービス規律意識の向上を図り、サービス事故ゼロを実現する。</p> <p>⑥ 職員室の環境改善(分掌・学年配置)を計画し、生徒が安心して過ごせる居場所づくりを推進する。トイレの全面改修工事要望を東京都教育委員会に進言する。</p> <p>⑦ 学校正門入って横の花壇を活用し「花いっぱい運動」を推進し、学校を明るく温かい居場所となるような雰囲気づくりに取り組む。</p> <p>⑧ 経営企画室の経営参画を一層進め、全教職員との連携・対話を重視し、生徒・保護者の視点に立った教育環境の整備、適切な会計処理、入学者選抜の円滑な実施等を図りながら、本校のあらゆる教育活動の円滑化を積極的に推進する。</p> <p>⑨ ペーパーレス化を促進するとともに、PDCAサイクルを徹底し、全教職員がコスト削減、迅速な課題解決、業務の効率化・平準化・縮減化・削減化に取り組み、超過勤務時間を削減する。</p> <p>⑩ 安全衛生委員会を年12回開催することにより、職場環境の改善、教職員のメンタル、働き方改革等につなげる。</p> | <p>○組織目標の明確化と課題解決への取組100%</p> <p>○個別超過勤務時間の削減</p> <p>○予算執行率100%</p> <p>○センター予算執行率50%</p> <p>○「ライフ・ワーク・バランスの実現」80%</p> |
| | 主な推進所管・担当 | |
| 全分掌、学年、教科、経営企画室、主幹会議(または将来構想検討委員会) | | |